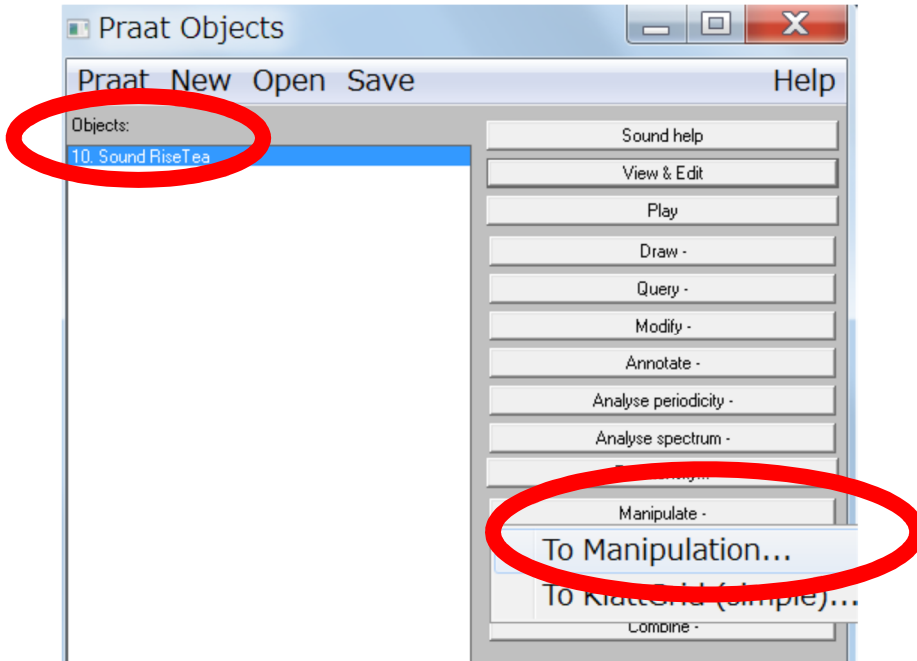


## quick tutorial of Praat: part 4

1. praat の New-Record mono Sound で、下の状況での 2 種類の “Tea.” を録音し RiseTea という名前をつけて保存し、左の Objects: に RiseTea を作る。

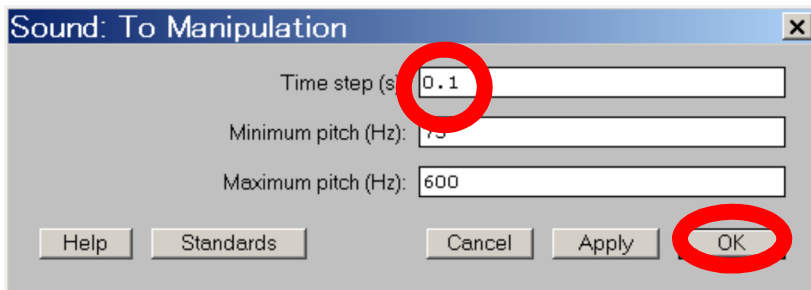
(Tea and coffee here. Would you like)      “/Tea?”

2. 次に RiseTea オブジェクトを選択し、右の Manipulate-To Manipulation を押す。

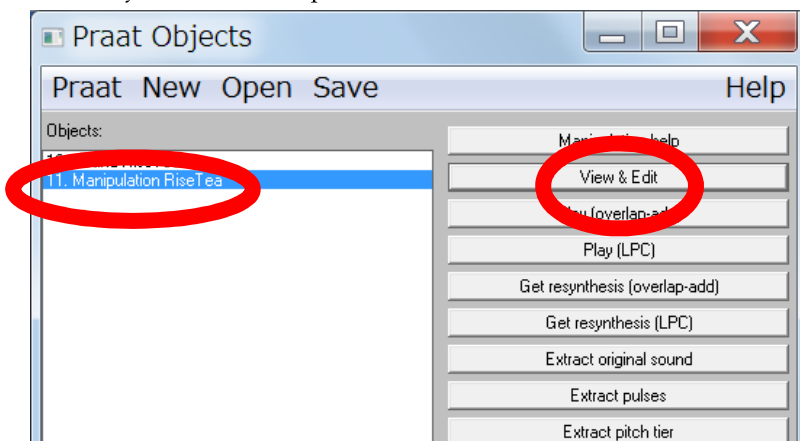


3. 下のようなダイアログボックスが出るので、Time step を 0.1 に変えて OK を押す。

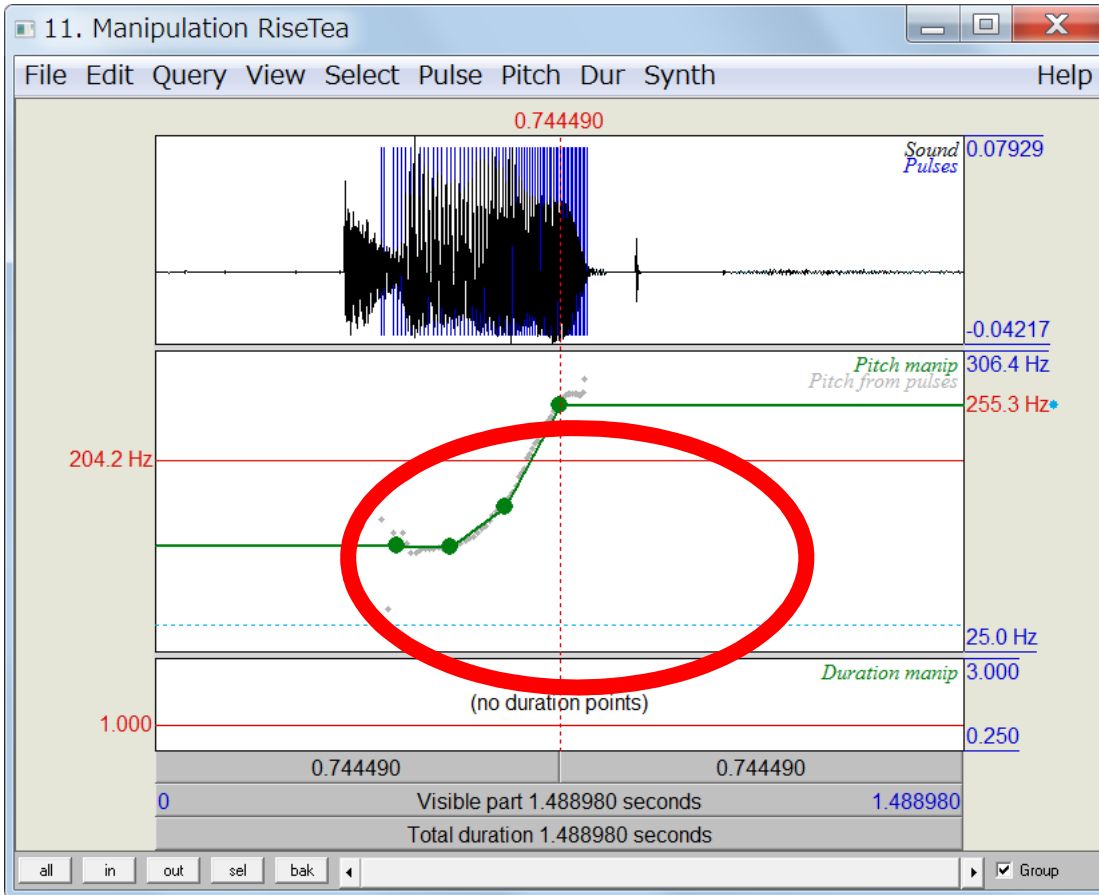
(男子は Maximum pitch を 300 位に、Time step はそのままにして、後の Manipulation 画面でドラッグ - Ctrl+Alt+T で step を減らしてもよい。)



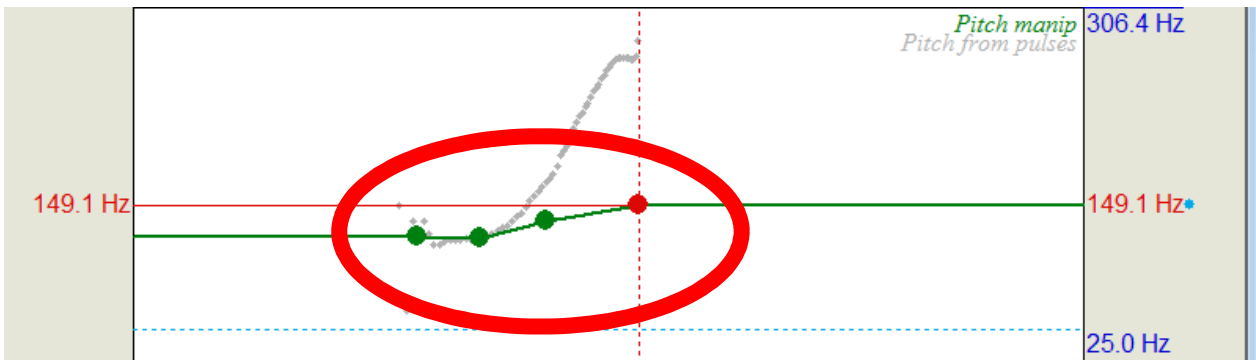
4. Objects: に Manipulation 4hours ができるので、それを選んで View & Edit を押す。



5. Manipulation Editor が開く。緑の線はピッチを表す。最低と最高の周波数をメモせよ。



6. ピッチの右半分の点を上げたり下げたりし、下のバーを押してどのように聞こえるか確認せよ。「お茶飲む？」という疑問文に聞こえなくなる点の周波数を決め、ピッチが何 Hz から何 Hz へ変化すると、疑問文に聞こえなくなるかをメモせよ。(課題)



8. ピッチを変更したオブジェクトは Get resynthesis (overlap-add)で再合成した object として保存される。Save-Save as WAV file ...で音声のファイルとして利用できる。

7. (課題) (What's in this pot?) “\Tea.”

という場合の Tea を録音し、今度は緑の点をどの位上げれば「お茶飲む？」と聞こえ始めるかを調べよ。“\Tea.”を上げて疑問文に聞こえ始める高さで、“/Tea?”を下げて疑問文に聞こえなくなる高さが違う場合、なぜそうなるか理由を考えよ。

(応用：Manipulation Editor で Dur - Add duration point ... を加えると長さを変えられる。強さは To intensity ... - To IntensityTier(peaks)で tier を作り、元の object と一緒に View & Edit / multiply )